

八五一番

我がやどに 盛りに咲ける 梅の花 散るべくな  
りぬ 見む人もがも

八五二番

梅の花 夢に語らく みやびたる 花と我思ふ  
酒に浮かべこそ

(松浦川に遊ぶ贈答歌二首)

八五三番

あさりする 漁夫の子どもと 人は言へど 見る  
に知らえぬ うまひとの子と

八五四番

玉島の この川上に 家はあれど 君をやさしみ  
表はさずありき